

令和6年度 会派行政視察実施報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	上志の風
事 業 名	北広島市 ボールパーク誘致を契機としたまちづくりについて
事 業 区 分	行政視察

1 上田市での課題と研修・調査の目的

北広島市では、北海道日本ハムファイターズの新球場誘致を行うとともに、それを契機に様々な事業を展開していてまちづくりを遂行しています。上田市においても、企業誘致や施設誘致の方法やそれに伴うまちづくりの進め方を参考にしていきたい。

2 実施概要

実施日時		視察先	北広島市
令和6年8月7日(水) 14:00～15:30		担当部局	経済部 ボールパーク連携推進室
報 告 内 容	1 視察先の概要		
	北海道 北広島市は道の西部、石狩平野の中央にあり、札幌市に隣接する丘陵地帯に位置する。市街地周辺部は国有林などに囲まれており、大都市に隣接しつつも自然環境に恵まれた都市です。 面積 119.05km ² 、人口 56,670人(令和6年6月30日現在)		
	2 視察先の特徴		
	明治初期に広島県人が入植して開拓し、クラーク博士が「ボーイズ・ビー・アンビシャス」の名言を残した地。快速電車で札幌まで16分の位置にあり、通勤・通学者の3分の1は札幌市に通うベッドタウン。北海道日本ハムファイターズの球場を核にホテルやショッピング、レジャー施設等が整備される。		
報 告 内 容	3 視察項目について		
	○北海道ボールパークFビレッジ、北広島のまちづくり		
	1、誘致の経緯		
	平成14年(2002年) ・室内練習場の誘致において、ファイターズと初めて接点を持つ 平成27年10月(2015年) ・官民連携による総合運動公園整備の検討調査を開始 平成27年12月 ・プロの試合も可能な球場について、ファイターズと意見交換		

	平成 28 年 5 月（2016 年） ・ファイターズの新球場構想が報道 平成 28 年 6 月 ・平成 28 年第 2 回定例会で新球場誘致について市長行政報告 ・ファイターズ球団事務所訪問、誘致活動を行っていく旨の申入れ 平成 28 年 12 月 ・日本ハムとファイターズより新球場構想の調査検討開始を発表 ・北広島市からファイターズへ提案書を提出 平成 30 年 3 月（2018 年） ・「きたひろしま総合運動公園予定地」が、ボールパーク予定地として内定される 平成 30 年 10 月 31 日 ・きたひろしま総合運動公園予定地での、新球場（ボールパーク）建設が正式に決定 令和 2 年 4 月 13 日（2020 年） ・新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO」の建設工事に着工（起工式の開催） 令和 5 年 1 月（2023 年） ・新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO」竣工 （令和 5 年 3 月 30 日開幕） 2、北海道ボールパークFビレッジ エリア計画（フェージング） フェーズ I（2023～2026） 【スタジアム内】 ① ファイターズショップ（フラッグシップストア） ② TOWER 11（フットボール／温浴・サウナ／宿泊施設） ③ ブルワリーレストラン「そらとしば」 ④ 七つ星横丁エリア（10 店舗） 【屋内・屋外】 ⑤ あそび場「ボーンランド」 ⑥ キッズプレイフィールド ⑦ グランピング「TAKIBI TERRACE ALLPAR」 ⑧ 農業学習施設「KUBOTA AGRI FRONT」 ⑨ 認定こども園/病児保育「キッズラボ」 ⑩ ヴィラ（1 棟貸付型 宿泊施設）「VILLA BRAMARE」 ⑪ ベーカリー/レストラン「Truffle BAKERY/Sincere N」 ⑫ アドベンチャー・パーク ⑬ ドッグ・パーク ⑭ ザ・ロッジ「SPECIALIZED/THE NORTH FACE/HUB ほか」
--	---

	⑮ レジデンス（分譲マンション） ⑯ シニアレジデンス/メディカルモール（2024 年 8 月開業） SDGs の取組 ・ F ビレッジが注力する「子供」 ・ F ビレッジが目指す「持続可能な街づくり」 ・ F ビレッジが推進する「パートナーシップ」 防災機能の整備 <大規模災害における相互連携に関する覚書> 北海道、北広島市、北海道日本ハムファイターズ、ファイターズスポーツエンターテインメントの 4 者による覚書を締結（令和 2 年 1 月 24 日） <エスコンフィールド HOKKAIDO（新球場）> 周辺住民、来場者、観光客、帰宅困難者などの緊急一時避難への支援 <防災備蓄倉庫の整備> 防災備蓄倉庫を活用した道内市町村への支援 <F ビレッジ（BP エリア）> 上記施設を含め F ビレッジ全体を防災拠点と位置づけ、周辺道路を北海道緊急輸送道路に指定 災害に対する強化を図るため、周辺道路及びエリア内での無電柱化を実施 北広島市の取組 1、交通アクセス ・ スタジアム来場者（35,000 人）の交通分担率想定の方策 2、新駅の整備について ・ 令和 2 年 7 月 JR 北海道へ請願書を提出 ・ 現在、JR 北海道において詳細設計を実施中 ・ 引き続き、整備費用や工期の短縮に向け、具体的な協議が進行中 3、札幌圏都市計画区域（区域区分） （1） 人口・産業規模の将来推計を勘案した市街化区域編入 （2） 人口フレーム方式等によらない市街化区域編入 4、新町名について 新町名は「F ビレッジ 1 番地」 5、JR 北広島駅西口周辺エリア活性化整備計画 6、市有地・複合交流拠点施設、居住交流施設 広域連携体制の確立 近隣 16 市町村＋各種行政機関＋民間事業者 ＝オール北海道ボールパーク連携協議会（令和元年 7 月 9 日設立）
--	---

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

北海道ボールパークFビレッジ、北広島市のまちづくりの初めの取組は塩漬けになっていた「きたひろしま総合運動公園予定地」の広大な未利用土地の問題を解決するために、北海道日本ハムファイターズの2軍の為に話を始めることからと伺いました。当時札幌ドームを本拠地としていたので、球団自体に声をかけるつもりもなかったとおっしゃっていました。そこからの展開を見るにつけて、そもそも、初めからあきらめていては何も始まらないし、相手の事情もしっかりと理解し寄り添い謙虚にまた大胆に、身の丈に合ったところから、光り輝く未来の夢も語りながら、信頼関係を築いていくことはすべてのことに通じていくことと改めて実感し感動したところです。また、球場を建設するだけにとどまらず、野球やイベントなどがない時でも、人が集まってくるような仕掛けを考えていて常に賑わいがあることがとても素晴らしいと感じました。

これからも、新しい駅をつくったり、エリア計画を長い期間をかけてバージョンアップを図りながら、その時代に合わせながら進めていくと伺いました。

上田市においても、新たな施設を建設したり改築したりするときは、その施設がその地域でどのような役割を果たしていくのか、またどのような役割をするように仕掛けていくのかをしっかりと考えながら進めていきたいものです。

少子化で人口減少が進んでいく中、施設整備計画や立地適正化計画や上田市都市計画マスタープランも現実的にみんなの意見を取り入れながら進めていくことが重要であると考えます。

上田市が住みやすく、持続可能な街になっていくように今回、北広島市の視察で学んできたこと感じてきたことを上田市に活かしていけるように活動をしていきます。



* 視察先の写真等がある場合は添付のこと